

自民党区議会議員 24年2月号No.5 4毎月1回発行

とりがい秀夫の地域ニュース

南千住8-3-3-201 電話&FAX (3807) 4811

携帯メール torigaihideo@ezweb.ne.jp



荒川区「防災都市づくり部」創設

都市整備部・土木部統合 機能強化

荒川区は3月11日「東日本大震災」の後、今後発生が想定される「首都直下型大震災」に対応できるよう大幅な震災対策マニュアルの改訂を進めています。その一環として24年度から荒川区の組織を一部統廃合し、現在の土木部（道路や公園などを管理）と都市整備部（街づくりや再開発等を担当）を統合し、新たに防災都市づくり部を設置することにしました。更に現在の住環境整備部を防災街づくり推進課に変更し、災害時に備えて従来より、防災に対してより強く、効率的な体制を進めることになりました。今回の組織改正はハード面の改正ですが、ソフト面の防災組織である防災課は町会との関わりも深く、今回はそのまま区民生活部におかれることとなります。災害に強い街づくりは、建物・道路・公園等が一体として進める事が望ましく、今回の新組織に対し期待する声も上がっています。

区議会予算委員会開会

待機児解消や防災対策・元気高齢者対策等論戦

24年度定例会が開催されています。全会計の予算規模は1,318億円。これらの予算を審議する「予算委員会」が2月27日より8日間の日程で始まりました。24年度は保育園待機児解消対策として、新たな保育園設置や防災対策関係・区民の健康問題が重要なテーマとなります。



1,000冊超の絵本・福島へ寄贈

本紙12月・1月号において、「原発事故による影響で現在、会津若松市内に仮住まいをし、更にこれから先、いつ自宅に帰れるかわからない大熊町の子供たちに絵本を贈って励ましてあげましょう」という記事を掲載しました。この呼びかけに対し、汐入小や汐入東小、第2幼稚園・汐入図書館に届けてくれる方が多くなり、1月末には右写真のように1,000冊を超える絵本が寄贈されました。今回の活動に対し協力をいただいた「汐入父親の会」「べるぽーと汐入商店街振興組合」「荒川区総合型地域スポーツクラブ」の皆さんに御礼申し上げます。



2月17日 原発被災地の児童に届けました



雪積もる中で、仮設住宅で避難生活をする「大熊町」の人びと



畳の上を図書室にして読書活動をする子供達



大熊町の鈴木副町長に絵本を手渡す
(仮庁舎も廃校になった女学校を活用)



子供たちは市内から10キロ離れた学校に通学。
廃校の河東小学校に2つの小学校が入っている

新名所・東京ゲートブリッジを歩こう

日時 3月25日(日)

集合 8時20分 JR南千住キヨスク前
距離約7キロ

雨天順延・4月22日

11時頃現地解散となりますが、夢の島熱帯植物園や
お台場など近くの名所を検討中



日光道中を歩く②

千住宿～竹ノ塚【約7キロ】

日時 3月18日(日)

集合 9時・京成千住大橋改札口

雨天 順延(20日)

解散 11時半頃 竹ノ塚駅

予告 日光道中を歩く③4月29日(日)雨天は30日

日光まで挑戦しませんか!



春の南信州バス旅行のお誘い

木曾路「奈良井宿」と昼神温泉の旅

日時 4月15日(日)～16日(月)

出発 朝8時・汐入郵便局前

会費 29,800円

宿泊 名湯 昼神温泉「阿智川」

申込みはお早目に3807-4811 鳥飼迄



地域の歴史を訪ねて—19

家光・吉宗も通う三河島の鷹狩り

右の浮世絵は広重の江戸名所百景の内「箕輪・金杉・三河島」という有名な作品です。【現在、ふるさと文化館

(南千住図書館)で企画展を行っています】江戸時代までは現在の

大関横丁の近くスーパー「オリンピック」付近に大きな池があり、ここに毎年寒くなると鶴が飛来してきました。その鶴を幕府の命により鶴の餌付けを担当する

「網差」及びその弟子が餌付けを行い

(毎日3回、粃5合ずつ撒く)人を恐れなくなるのを見て、鷹狩りの長である鷹匠頭に報告します。鷹匠頭は幕府

の役人にこの事を上申し、最後は老中が日時を定め将軍に言上し、それに

したがって鷹狩りを行う仕組みになっていました。鷹狩りを行う場所は江戸から4里(20キロ)四方にあり、三河島の鷹狩り場所は鶴を狩るので、最も格式の高い鶴御成り場所とされていました。(鷹狩りは他にも鴨狩・雉狩りがあります)取った鶴はその場で内臓を取り、内臓に塩を詰めて縫い、昼夜兼行の早駕籠で京都の天皇などにたてまつります。鷹狩りのルートは6筋程ありますが、三河島に来る場合は船で南千住3丁目の石浜の岸に上がり、鷹狩の後、宮地付近の観音寺で昼食を食べ、千住大橋から船で江戸城に帰る事が多かったようです。ちなみに5代将軍綱吉の時は中止となりましたが、8代将軍吉宗は年平均13回、11代将軍家齊は年12回の鷹狩りを行うなど、将軍にとって鷹狩りは民情視察・軍事訓練・身体鍛錬等の役割もあったようです。1回の鷹狩りでそれぞれの分担で70~80人のお供がついていきました。鷹狩り制度は身分制度とは違う意味での縛りを住民にかけていたようです。

